BUTOH RESEARCH 2017



舞踏の実態調査 / 日本国内個人対象 BUTOH RESEARCH 2017

舞踏の実態調査 / 日本国内個人対象 BUTOH RESEARCH 2017



1 — 本調査の概要	
1-1. 背景と目的	04
1-2. 本調査の進め方・方針	04
1-3. 回答者の属性	05
2 — 舞踏家の活動状況	
2-1. 活動形態と頻度	06
2-2. 活動場所	07
2-3. 集客について	12
3 — 舞踏家の経済状況	
3-1. 活動収入•活動支出	14
3-2. 経済面における満足度や課題について	15
3-3. 経済面の課題や障壁	16
4 — 舞踏に対する価値観について	
4-1. 舞踏に興味を持ったきっかけ	18
4-3. 記憶に残っている舞踏作品	27
5 — 記録方法について	
	30
6 — 本アンケートについて	
6-1.アンケートへの反応について	32
7 — アンケート回答についての考察と課題	33
	2-1. 活動形態と頻度 2-2. 活動場所 2-3. 集客について 3 一 舞踏家の経済状況 3-1. 活動収入・活動支出 3-2. 経済面における満足度や課題について 3-3. 経済面の課題や障壁 4 一 舞踏に対する価値観について 4-1. 舞踏に興味を持ったきっかけ 4-2. 舞踏の定義 4-3. 記憶に残っている舞踏作品 5 一 記録方法について 5-1. 公演記録への関心 5-2. 公演記録公開への関心 5-3. 公開範囲について 6 — 本アンケートについて 6-1. アンケートへの反応について 6-1. アンケートへの反応について

本調査の概要

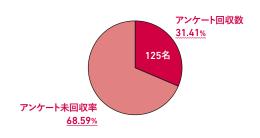
1-1 背景と目的

日本独自の身体表現として注目される舞踏は 1970年代後半以降、世界中のフェスティバルか ら招聘され、舞台芸術の枠組みを超えて広く影 響力を発揮してきた。現在に至っても、世界的 な拡がりと地域ごとに固有の発展を見せている。 しかし、その影響の範囲と活動の全体像は依然 として明らかになっていない。そこで舞踏の現況 を把握するために、日本のダンスアーカイヴ構築 と世界のアーカイヴネットワーキングを目指す 活動を行うNPO法人ダンスアーカイヴ構想が主 体となり、国内外で「舞踏/BUTOH|を掲げる舞 踏家/ダンサー/振付家を主な対象としてアンケー ト調査を実施するに至った。この調査結果をも とに、舞踏の活動実態を適切に把握し、その特徴 を捉えるとともに、今後のモニタリングの指標に なることを目的とする。将来的には、本調査によっ て得られたデータをもとに、舞踏を無形文化財 産として保存し、次世代へと継承するためのアー カイヴの構築を目指している。

1-2 本調査の進め方・方針

本アンケート調査は、日本国内で活動する個人の舞踏家/ダンサー/振付家/研究生を対象として、2018年2月20日から3月15日の期間に実施した。主に、当NPO法人が保有する舞踏家や研究生のデータベースより392名を対象とした。オンラインアンケートのフォームを配布し、2017年度の活動と経済状況、舞踏に対する価値観、公演の記録について回答をしてもらった。125件のサンプルの回収を行い、その結果を視覚化する形で調査報告としてまとめた。「舞踏の実態調査」は複数年に渡る中長期プロジェクトとして位置付けている。今回のアンケート結果も踏まえた検討と改善を行い、国内外で継続的な調査を行っていく。

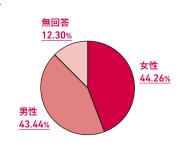
アンケート回収率



1-3

回答者の属性

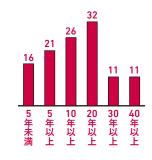
性別



年齢層



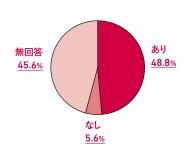
活動年数



活動拠点地域 (複数回答あり 例:東京&パリ)



所属団体の有無



ウェブサ 仆種類 (複数回答あり)



2

舞踏家の活動状況 2017年1月~12月の活動について

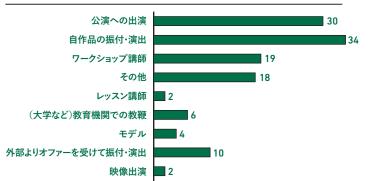
2-1

活動形態と頻度

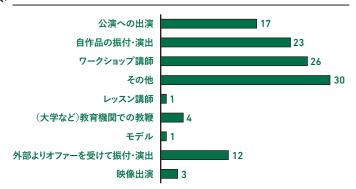
Q, 2017年に1番目に頻度が多かった活動を教えて下さい。



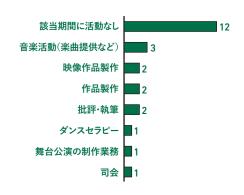
Q. 2017年に2番目に頻度が多かった活動を教えて下さい。



〇. 2017年に3番目に頻度が多かった活動を教えて下さい。



Q. 活動「その他」について具体的に 教えて下さい。



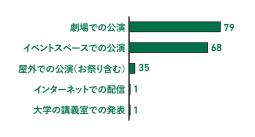
Q. 1番目に頻度が高かった活動の 回数(年内)を教えて下さい。



2-2

活動場所

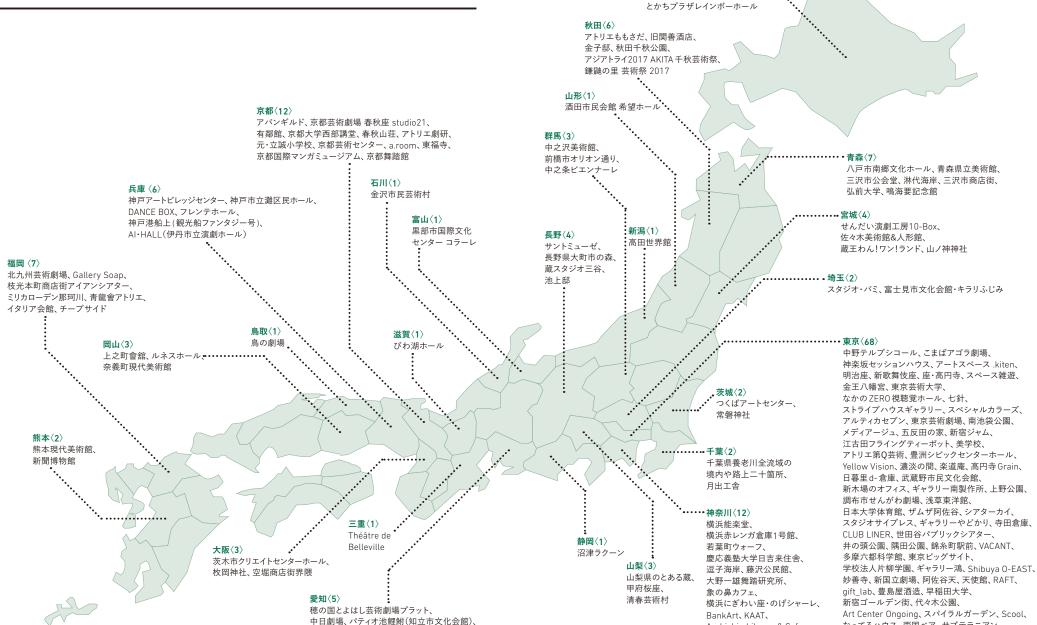
Q. どのような場所で公演を行うことが 多かったですか?



Q. 2017年にあなたが踊った場所を 教えて下さい。



2-2 活動場所 — 2017年にアンケート対象者が踊った場所一覧(国内)



北海道(3)

生活支援型文化施設コンカリーニョ、

なってるハウス、両国ベア、サブテラニアン

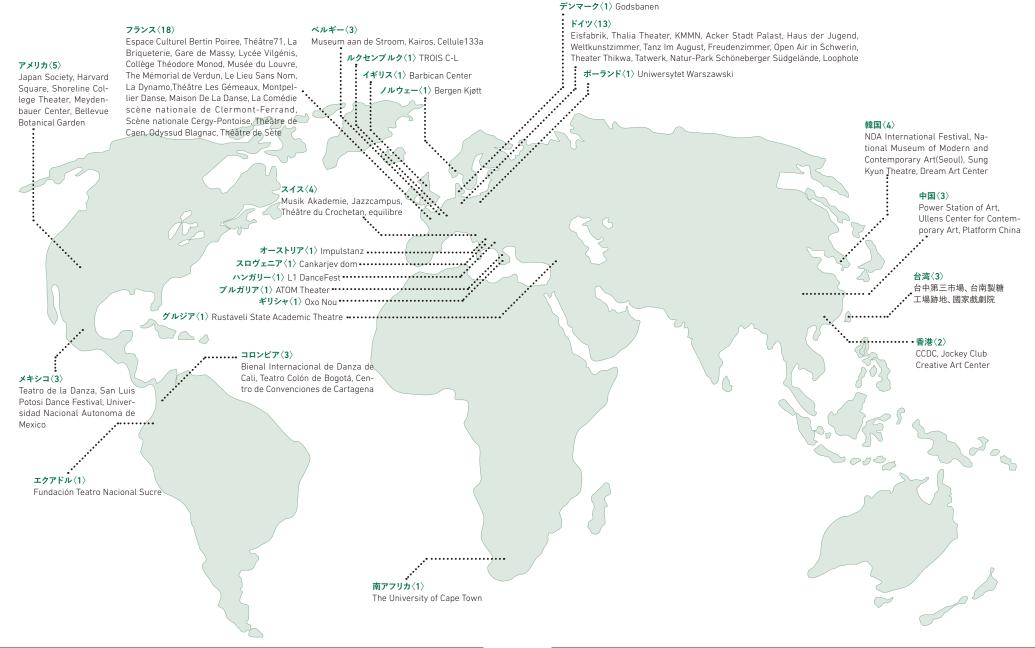
Archiship Library & Cafe

ターミナルプラザことにパトス、

舞踏家の活動状況 舞踏家の活動状況 08 09

真清田神社、大府夏まつり

2-2 活動場所 — 2017年にアンケート対象者が踊った場所一覧(海外)



10

舞踏家の活動状況

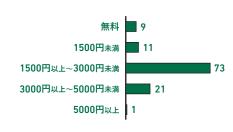
舞踏家の活動状況

2-3

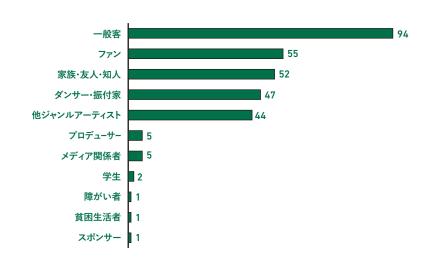
集客について

- Q. 一公演(複数ステージ含める)にて達成された集客の規模を教えて下さい。
- Q. 公演チケットの平均的な価格を 教えて下さい。

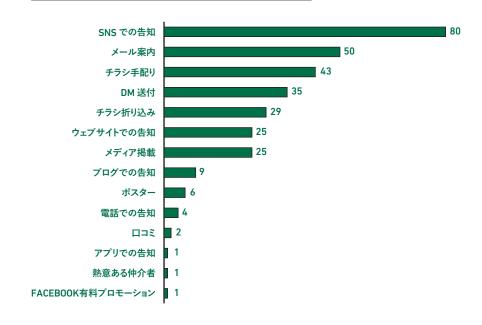




Q. 集客のターゲットについて教えて下さい。



Q. どのような集客の工夫に手応えを感じましたか?



Q. 集客の達成度を教えて下さい。

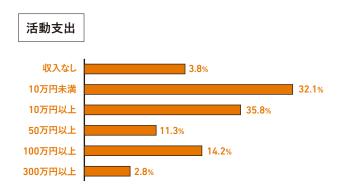


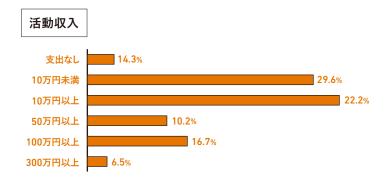
舞踏家の経済状況

3-1

活動収入·活動支出

Q. 2017年中の舞踏家/ダンサーとしての活動における収入・支出を教えて下さい。





3-2 経済面における満足度や課題について

Q. 2017年中の舞踏家/ダンサーとしての経済状況に満足していますか?



Q. 活動の経済面における課題や障壁などがあれば教えて下さい。



〇. 活動の経済面における課題や障壁などについて具体的に教えてください。

年間複数のカンパニーまたはソロ作品を制作し、舞台美術も大掛かりなことから、助成金を取れない場合、自己資金またはプライベートカンパニーからの予算確保に駆け回るため、創作に集中できる時間が取れないこと。

交通費が全額支給されないこと

集客による収入とスペースレンタル代、 チラシ作成、衣装などにかかる支出 のバランスが悪い

自主公演をうつ度に赤字をかかえる

所属している団体がまだ大きな知名 度を得ていないという現状なだけで、 今後は飛躍する団体だという確信が あるので、現時点での課題や障害は それほど気にしていません。

自身の活動の中での収益ではとてもでは無いが生活はできない。海外と違い日本は劇場使用代金だけでも経費がかかる上に、日本での舞踏の認知度が低い為、創客に時間がかかる。

別な仕事をしているので、踊りや踊り に関わることにかけられる時間が少 ない。

ダンスで仕事ができていません。自 分の未熟さゆえですが、もっと幅広く 伝えていけるようにならねばと思って います。 助成金を受けることの困難さと、潜 在的客の少なさ。制作者の不在。

出演料が出る舞台が少なかった。学 業との両立

自分の手や身体で生み出す豊かな暮らしに満足はしている。 しかし、ダンサーとして経済活動を目的とすることには意義を見出せないが、対等な関係ではなく搾取的な部分を感じることには満足していない。

たくさんの仕事の量の割には、収入 が少なく、生活が不安定。それ以上 に 制作費を生み出すのに大変難し く、文化のための援助が多くのアー ティストに公平に与えられていない。

踊る事でお金にならない。公演を企 画してもチケットが高く人が集まらない。

活動領域の拡大

集客が困難。

アーチストが制作業務を兼ねた運営 状況。金融機関からの貸付が芸術 に対して開かれていない状況。全額 支給ではない助成金獲得の重なり。

観客、関心を持つ人が多くない

助成金を得なくては収入を得ることは できず、また、生活の為の職業を休 んで公演のために活動せねばならな いために、生活が圧迫される。 職業として成立するレベルには至っていない。集客に安定性もないので、ワークショップ受講生による公演や、外部のスタッフを募って舞踏を広めている所。

箱を借りるのがまずネックになります。 こだわればこだわる程難しく尻込み してしまいます。

集客のむずかしさ

観客から大好評を受けた作品があり 劇場でもやりたいものの経費のかか る劇場公演へのハードルを感じ実現 できていない。無名無評価のため集 客力もなくセルフプロデュースやPR が苦手。

ダンスを職業として認めて貰えていないと感じる。チケットノルマが大きな負担。それを払う為に別で仕事(バイトや非常勤)を探さざるを得ない

国内での舞踏の認知度、理解度が 低い。ワークショップや教室などにお いても他のジャンルに比べて集客力 がない。

県外の公演活動でうまく助成金が得られておらず、広報活動が小さくなっている。

ソロ公演に対しての助成が難しい

作品を発表する場が少ない。

家族を養わなければならない

所属団体における諸経費(交通費、 宿泊費等)の自己負担の割合が多い ことなど。2017年においては参加し た映画の活動において立替分が非 常に多く清算が非常に遅れたことなど。

無踏では生活できない。

とにかく舞踏の需要というものが皆無に近く、その少ない需要を取り合っている。その状況を打破するためになんでもありの舞踏の精神に則り、需要を多くする。

有力なマネージャーの確保

半年は雪に埋もれた生活のため、内容的には充実しているが、外に出る機会が限られる事。マネージメントをする人がいない事。等

集客、助成、活動内容の社会的評価、メディアの脆弱性

2017年は、ツアーが延期になるなど、 公演をする機会が少なかった。そのた め、収入も手ごたえもない年であった。

舞踏を知らない人が多い。集客がうまくいかない。どうやったらいいかわからない。

イベント出演において出演料を払って頂けないこと。自主公演において、制作から稽古場の手配まで他人に任せるお金がないこと。踊りで集客が本当に大変なこと。

集客に伴う収益、予算とアンバンランス(赤字もたまに)

日本はダンス・舞踏カンパニーに所属しても給料を貰えることがとても少ないこと。収益を得るなら自己プロデュースしてマネタイズせねばならなく、時間がかかる上にリスクも高い

謝金等の基準が流動的

稽古場及び住まいの家賃を支払い、何とか生活はできるが、アルバイトなどのため、舞踏の研究などに費やす時間がなかなかとれない。

舞踏における公演立ち上げの負担 軽減、収入の確保に対するサポート ネットワークは構築できた方が良いと 思う。

謝金の総額には改善の余地があり/報酬の交渉と今後の関係性構築との兼ね合い、またはコントラクトを結ぶか否か/現地通貨で報酬をもらう際の為替の問題

ギャランティが発生しない公演が多い。

作品稽古~本番までを一括して出 演料を謝金としていただくが、自己負 担金はカバーできる場合もあればそ れもままならない場合があること。また、 日当が支払われることは減多になく、 実際には公演前後で生活に困る程 の経済状況になることもあるため。

ソロ活動に対する助成の無さ。舞踏の 場合出演料も発生しないことが多い。 自主公演をした場合に赤字となることが多い。

活動に際して様々な方々の理解と支援者が増えてくればよいと思う。

バイトをとぎれとぎれしながら、舞台 に出演しているため

アルバイトをしながらアーティストとして活動を続けていくスタイルは、特に 体力や精神力が強いタイプの人しか 適応できないと思う。

大学での仕事意外では、舞台では 経済的には成立しません。

集客と会場の費用

ダンサーとしての収入の他に自営業の収入があるので特に問題はありません。

海外におけるワークショップ指導活動が主な収入源ですが、国内外での公演活動を収入につなげる事が 課題です。

主催事業に関しては経費の負担が 大きいため、個人の収入が十分なほ どは確保できない

海外での小規模な活動に対する助 成金制度がほしい

踊り、身体に関する研究は大切なことだと思うけど、助成制度が充分でないと思う。アピールが少ないのか?やはり良い作品をつくらないと。なのか。

17

月 台 舞踏家の経済状況

舞踏に対する価値観について

4-1 舞踏に興味を持ったきっかけ アンケート記述回答一覧(個人情報が特定し得る回答は一部改変)

Q. 舞踏に興味を持ったきっかけを教えてください。

アリアドーネの会の踊り子募集のチラシを見て、翌日、稽 古場を訪ねました。舞踏は一回も見たことがありません でしたが、チラシを見て、私の中に共鳴振動するものが あったのです。

60年代の演劇に興味があった。

劇場での公演を観劇して。

寺山修二の映画がきっかけで芝居を始め、その後舞踏を 知りWSを受けた。

歌舞伎、大駱駝艦

諸先輩の舞踏公演を観たから

山海塾の「うつり」という作品を見たこと。

文学、言語への倦怠。玉野黄験市作品を体験したこと。

やってみてはどうかと言われ、今の師匠である舞踏家の 方の元に稽古に行ったこと。

高校生の頃、旅の途中で北方舞踏派に入り浸るようになってから。

1970年当時アスベスト館公演などを見て

学校の授業

大学の授業で紹介された土方巽さんの音源、武内靖彦さんとの出会い

パリ第八大学で学んだ際

子供の頃、母から見せられた土方巽の写真。 私はバレエ をやっていたので、異なる踊りに興味を抱いた。

大駱駝艦の公演

大野一雄・慶人先生の舞台

野口体操に興味を持って駱駝に行った。

小学生の頃に大野一雄公演を見たこと

舞踏の作品映像をみて

Body in Asia

詩のような言葉を読んでいるような間合い、そこにある 静けさ、情動、懐かしさを感じます。人間がそのままに美 しい。童謡のようなどこまでも拡がる世界に連れて行っ てもらえる。一つ一つの動きに震えます。私も表現体に なりたい。舞踏は人間の本質だと思っています。

1968年 「まんだら屋敷」にて土方巽、大野一雄、高井富 子の舞踏を見、衝撃を受けた。

多くのワークショップや舞踏のダンサーに会う機会がある

もともとサブカルチャーが好きだ。

商店街で見かけた、役者時代(演劇)舞踏っぽいという評価を度々もらうことがあったので

細江英公写真集「鎌鼬 | の土方巽を見て。

映画卑弥呼を見て、土方先生の身体に興味を持ったこと から。

友人に誘われてはじめました

天井桟敷

役者として限界を感じていた時に出逢ってしまった

1977年、大野一雄の舞台を見たこと

映像を見て

大学生のときに、岡本章先生の授業で大野一雄の映像を 観たこと。

海外滞在中に受けたワークショップで。

公演を観たこと。

ワークショップ参加

スキンヘッドだったから

高校の部活動(ダンス部)の公演に大野一雄氏が来て踊ってくださった

イベント情報誌 演劇雑誌で、舞踏の公演とその内容や 評価を知ったことがきっかけです

大学の授業で学生の頃に知った

友人が出演している公演をみて。

大学の授業で山海塾の卵熱を見たこと

大野一雄、和栗由紀夫の公演を観劇して

歴史の中で生まれてきた革命的な表現だという点で、他の身体表現とは違うエネルギーを感じました。

土方巽を知ったこと。

内面を表現するダンスであったため

舞踏で表現する知人がいた

大野一雄の写真を見て

大野一雄と土方巽を知ったこと

飯田茂実氏による「みくさのみたから」の集いで、大野一 雄氏と舞踏を知ったから。 父親の影響。父親が土方巽を敬愛してわたしの弟に異という名をつけたことで知る。その後小学生から地元の伝統芸能で舞踏を始める。

写真家としてレンズを通して行ってきたこと、シャッターを切る時に行ってきたことが、舞踏と通じていたため。 特に舞踏での眼の使い方です。

元々母の趣味、学校の授業で舞踏というものは知っていましたが、遠い世界の出来事のようでした。自分が舞台に立つようになってから引き込まれていきました。

訳が分からないままに、感動する経験をしてしまったため

出版物

日本人としての世界観、表現力を知りたかった

全身を使って魂の表現をしたくなったからです。

ダンスの先生から舞踏について教わった。

現代美術に関心があり、「忘却」をテーマに、パフォーマンスや写真インスタレーション作品を制作していた頃に、頭脳プレイに陥りがちな所を懸念し、頭脳だけではなく身体を駆使して創作する現場を探した。その時に、あらたに出演メンバー募集をしていた舞踏系のグループ(千日前青空ダンス倶楽部)のチラシをみつけ、そこに書いてあった団体の作風についての文章(身体に蓄積されたもの、風景をあぶり出す、といったような文面だったかとおもう)を読んで、自身の美術作品の求めるところとシンパシーを感じて、門をたたいた。

学生時代に舞踏のメソッドを取り入れた劇団に参加して

19

1990年、元北方舞踏派の金粉ショーを見た

岩下徹氏のワークショップへの参加窮迫の中で

親の勧め

Q. 舞踏に興味を持ったきっかけを教えてください。

テレビでの特集

演劇学校を卒業後、ダンス系の集団に興味を持ったことから。

土方巽と芦川羊子の舞台を観て興味を持った。

美術手帖で土方巽の記事を読んで興味を持った。

自由への手段

17~18年ほど前に大野一雄の踊りを観た

その人の身体から、情景や時間が見える

異様だったから。

大学時代の学生運動

ストリートダンスを経て、コンテンポラリーダンスに移 行し活動している中で全く意味のわからない舞踏に出会 い、惹かれ、調べ始めました。

大野一雄の映像に感銘を受けて

個の創造性の奥行きを舞踏に見た

映像をやっていましたが、大野一雄や土方巽の映像や写真を見て舞踏者の身体の言語性やメタモルフォーゼに 圧倒された。

和栗由紀夫氏との出会い、共同公演。

偶然、舞台を観て。

師匠の和栗由紀夫の公演にダンサーとして出演したこと から

一見抽象的な動きから、膨大なイマジネーションが広がるところ。その秘密を知りたいと思いました。

知人からの紹介

大野一雄舞踏公演

大野慶人舞踏講座 を受講したことがきっかけです。

学生時代に授業の中で、ネオダダイズムの番組を見て土 方異を知った。またパートナーが舞踏の道に進み、舞踏 の魅力について知った。

小さい頃からジャズダンスやヒップホップなどを習っていたが、2015年、自分の中の「ダンス」という概念を自ら壊したくなって、インターネットでいろいろ探していたら「暗黒舞踏」という存在を知った。それがきっかけ。それからネット上に上がっている画像や動画を観てカルチャーショックを受け、ワークショップに参加してみたら、「これだ!」という感覚を覚え、以来没頭している。

土方巽さんの舞台を鑑賞したことです。

一番始めは、写真をどこかで見たことだと思います。

元々能楽ファンだったが古典の限界に突き当たったとき

大野一雄先生との出会いです。

土方巽のアーカイブでみた資料映像

小学生の頃テレビで舞踏(山海塾)を見て興味を持った。 当時の新聞の4コマ漫画で彼らをパロった冷やかした表現があり、それにウケつつも「彼らに失礼だな」と彼らに同情したことを非常によく覚えていて、小学生の当時すでに彼ら(山海塾)にシンパシーを感じていたのだと思う。のちに高校時代に演劇活動に関わり、舞台表現、身体表現の当事者となって、改めて舞踏を意識した。

そして「演劇の究極の姿は『舞踏』にある」という思いも 持つようになり、「自然と自分はそちら(舞踏)へ行くだろう」 と意識し始めた。

大野一雄氏の写真

知らずに始めていた

友人に見せられた土方巽の動画から。踊りを練習していく中で、舞踏のような動きを身体が欲している or 身体の中にあることに気がついたため。また舞踏のように人の価値観を揺さぶるパフォーマンスをしたいと考えている。その演出を取り入れつつ、自分の踊りを探っている。

緣

自分の身体だけでやれることはなにか?と思っていた時に、 大野一雄先生のおどりをみて自分もやってみたいと思った。

大野慶人先生との出会い

舞踏のワークショップに誘われ、それを観た。

ボローニャ大学の大野一雄アーカイブで観た大野一雄 の映像

学生のときに描いた美術モデルの方が舞踏家だった。

舞踏家との出会い(田舎の日常風景の中で偶然踊りに出 くわした衝撃)

知人のすすめ

高校生の時分に 大野一雄先生の写真を見て、とても感銘を受けました。また、TVで いくつかの舞踏公演の断片を見て、その当時 モダンダンスを習っていましたが、将来は 舞踏を踊りたいと思いました。

自分の存在を確かめる方法として体を床にうちつける等 していた。「いたい」と感じることで、自分を確認した。そ れが始まりかと。

『病める舞姫』をテキストに」の企画への出演依頼を受けたこと

アスベスト館、アイコンという名の身体WSを受けたのがきっかけです。

これから始まるのではないでしょうか

山海塾「金柑少年」のVHSを観て (1992年銀座セゾン公演)

いわゆる舞踏をはじめているとは自覚しておりません

Marie-Christine 先生から舞踏について知見を得て、ブリュッセルで山海塾公演を観て4年前に来日して大野一雄舞踏研究所で大野慶人さんや舞踏家 睦美さんと寧呂 さんの舞踏へ感銘を受けた

大野一雄、大野慶人そして山海塾の公演を観て

1960年代後半、高校生の頃に現代詩手帖や美術手帖等 を通じて大野一雄、土方巽、笠井叡の写真や文章に接し て興味を持ったことが始まり。

1971年10月、東京代々木八幡の青年座で開催された市川雅プロデュースによる<現代舞踊の異形>シリーズでの笠井叡「丘の麓」の舞台を観て衝撃を受け、舞踏への関心は決定的となった。

たまたま見つけて行った舞踏ワークショップの先生がと ても親切で情熱的で、3年続いたこと。

白虎社(東方夜総会)の舞踏体験合宿参加

現代詩手帖の舞踏特集を見たことがきっかけ。

大野一雄の公演「ラ・アルヘンチーナ頌|

土方巽 「肉体の叛乱 | 見ル

バレエの表現に限界を感じた。もっと自由に表現したい、 形式的なものでなく内側から

土方巽に出会った事

大野一雄の舞台を見て、その後研究所に行きお話を聞いたり、練習したりする中で、興味、関心が深まった。(実は大野先生やスタッフ、研究生の皆さんに親切にしていただいたことも大きかった。舞踏は親切な芸術活動だなと感じた)

21

Q. 舞踏を知らない人に、あなたは舞踏をどのように説明しますか?

身体、世界、対話、暗喻

闇に光をあて、輝き出すものが踊りになる。自分の体 を通して、森羅万象を踊る。あるいは踊らされること

60年代に生まれて、世界にインパクトを与えた日本発の 踊り。

60年代に起こったアート(ダンスを含めての)の一つ の実験的な活動。日本だけでなく世界的に当時は新しいものが生まれる機運が強くあった。

身体表現

相手に合せて、その人が分りやすいように臨機応変に 説明しているので、説明にはこれと言った決めセリフ は持たないのが信条。

日本独自の前衛芸術。

日本の生み出したダンス様式の一つで、ヨーロッパで は多くのダンスカンパニーでも必要とされるダンステ クニックでもあり、能や歌舞伎以上に知名度も高い国 もあるダンス。白塗りをして、ゆっくりと動くダンス。

戦後日本の抵抗運動の一環。

リズムに合わせて踊るのとは違っていて、必須ではないんですが白塗りをして、表出するというか動くというか、そこにある感じの…。

理性で仕分けされる以前の根源的な原石の輝きを求め る踊り。

命がけで突っ立つ死体

肉体による哲学の実践のようなもの。ダンスだと想像 するものとは違うかも。 見えないものを見せるもの。

1960年代に始まったアヴァンギャルドな身体表現。西洋舞踊と違い、踏むという言葉を使うなど

日本の土俗に根差した、地面に向かう踊り。何も考えずに観る踊り。

地を踏み、そして舞う

日本のモダンバレエと同根の戦後の踊り。

自分自身の生き方を身体を通じて探求する人々

人の感情や内側から出てきたものを動きにしていて、ダンスのように足を上げたりなどアクロバティックかつ派手には動かない身体表現

詩の様な踊り。土方巽さん、大野一雄さんが作った歴史。

内面を重視した普遍的な身体表現

どんなにテクニックがあっても出来ないダンス。

日本発祥の少し変わった踊り、白塗り

現代前衛日本舞踊

UFO on the Stage

日本発祥の身体芸術。

人体に最も近いアート

スマートフォンに映像を入れているのでそれを見ていた だいています。

舞踏とは身体の思想表現である

1960年代に土方巽、大野一雄によって創始されたものであり、西洋から取り入れられたパレー、ダンスを根底から解体し日本人独自の身体感覚に基づいて考案された舞踊の一形式である。時代の空気を吸い強い危機感を孕んだその舞踊は日本のダンス史に革命的変革をもたらし、また、舞踊のみならず美術、音楽、演劇へも大きな影響を及ぼした。

1970年代にはあたかも土方自身の身體内部の記憶の痕跡を辿るかのような舞踏世界を広く現出、死と生の狭間にある不確かであるようでいて揺るぎない存在を露呈させたり、手足など身體そのものの行方を探り続ける時に表出される迷宮を探り、また、見えないものへと手を差し出しそこにあるものを呈示したりもした。厳密な振付をしながらも即興性を重んじていたとも言える。大野一雄はやはり自身の躰に刻まれた記憶の中の舞姫アルへンティーナを内部から掘り起こす作業から自身の舞踏を確立してゆく。

1980年代に西洋へ渡った多くの舞踏家たちの努力によって広く世界に波及、世界に知られることとなり、そのダンスシーンに多大な影響を及ぼした。BUTOHが誕生。

昔は前衛とかアングラとか言われていた感じ

白塗りして踊るやつ。

ほんの一例ですが、と前置きした上で「全身を白塗りにして、髪の毛剃って、クネクネゆっくりと踊る日本ではあまりメジャーじゃないダンス」と。

人間を再定義する方法の1つ。

他の何ものでもなく、個々の身体感覚を拠り処にした、 人間存在の本質に迫り得る、戦後日本に生まれた、極め て独創的な踊り。

内から込み上げてくるその人が持つ生き様のようなもの と向き合い、それを身体で表現する日本発祥の舞踊。

日本のコンテンポラリーダンス

一言では言えないが3巨頭である土方異、大野一雄、笠井叡のそれぞれの作風を例に自由な形式や多様性を持つ現代の芸術舞踊と言う。またハイアートとサブカルと両方の領域にある様相や、何か表現活動している方へ説明する場合、活動の多数派として伝統や高等教育を必要とするアカデミックなアプローチよりもインディペンデント、D.I.Yのスタンスが作品の強度や独自性にも、結果的に多様性に強く直結していることも説明する。いくつかの共通点で音楽でいうロックに例えることも多い。

体を「無」にすること

説明するのは難しい。外見的には、白塗り、あまり動かないダンスだが、見えない部分(内面・精神面)大事にして踊っている。

喜怒哀楽など心の動きや 自分が持つ祈り、などのイメージを、音楽のリズムにのせることなく身体全体で表現する。

特異な日本のダンス

60年70年代に始まった日本の前衛的ダンス。言葉、イメージを受けて、動くからだを見つめるようなダンス。

身体から時空を紡ぎ出すダンス

単に動きの面白さだけではなく、「在り方」をみせる(伝える)おどり。

形やわかりやすい美よりも、内面にあるものを表現して いるもの

戦後抱かざるを得なかった闇の感情が日本の土着民俗 から反り返った前衛表現

土方異、大野一雄を中心として60年代に日本で誕生し、 80年代に世界に広がった踊りの一ジャンル。

23

肉体の原初的な運動

Q. 舞踏を知らない人に、あなたは舞踏をどのように説明しますか?

歩く、笑う、触る、話すなど外部世界と関わる上で表出する動作が舞踏だとすると、生きることが少したのしくなるかもしれない。と説明します

裸でうねうねしたりする踊り手達の系譜

「動き」や「表現」ではなく、「静けさ」と「存在」を追及する モノ

前衛舞踊

形ではなく、目に見えない何かを感じるもの。

日本の大地から生まれてきたもの

魂の踊りです。ありのままの自分を表現するものです。

日本で生まれた身体表現で心に直接届くもの。

日本の現代のダンスの一端にあるようなもの、日本舞踊 とはまた違う、単純明快に美しいばかりではない近現代 のダンス。

日本で生まれたコンテンポラリーダンス

肉体で肉体を表現する

窮迫の中で自ずと自らの存在を露わにし、それが自ずと 表現となっていること

踊りを見てもらう。

舞踏の歴史と、現在どうなっているのか。海外で舞踏が 受け入れられる理由などを、私なりの解釈で。

踊りを通して自分の生き方を考えること。

抜け殻が魂に追いすがる踊り。

西欧のダンスと、相反するアプローチ、形態。制約からの 逸脱。 言葉での説明はとても難しく思っており、動画を観せて いる。

ダンスというより、絵画や映像のようなもの

1950年後半に、日本で始まった。社会における体の美意 識とは全く違った「体」を提示し、既存の体の美に対して 疑問を投げかた踊り。

肉体であらゆる空間を創り出し、その中で立ち上る炎の ような魂が現れるもの。

説明は難しく思います。代わりに、舞踏を始めて感じたことを、次のように言葉として残しており、その言葉をのせさせていただきたいと思います。

心が忘れても

身体は忘れていず

心はごまかせても

身体はごまかせず

心を癒せても

身体に刻みこまれた哀しみを

消すことなどできるはずもなく

おそらく

そういうことなのかと。。

であれば

痛み

哀しみも

糧とし

踊りたい

日本国内では困難…。海外では新しいブームが広がっている。「舞踏は〈内部からのステップ〉、或いは〈立ち上がった禅〉」と説明している。

魂の芸術

大地に個の根を張って生きる生き方です

表層の人間であることやダンスを忘れ、深層の身体という物質にフォーカスすること。

日本発・日本独自のコンテンポラリーダンスの一形態。

お化けみたいな踊り

身体に対する哲学

究極の演劇。

まだ明確では無いですが、「伝統芸能では無いが、伝統芸能に近く、能のように表現を抽出したもの」

実際にいくつか舞台を見てください、と説明します

土方巽からはじまる舞踏の歴史について話す

自分の内側にある世界を体で表現する、哲学的なダンス。

日本のコンテンポラリーダンスの一種。身体表現振り付けという振り付けが無く、ひとりひとりが自分の内側をありのままに体で表現するので、一見ダンスっぽくない。一般的なダンスが「生」を表現するものとすると、舞踏は「死」や「闇」を生々しく表現する。ある種禅問答のように「人間とは」「生命とは」を肉体の動きで哲学していく。

踊ることを通じて、人間存在の本当の姿、本当の自由を探してゆこうと追求する態度。踊りを通じて身体に対する認識や感覚を常に新しく捉えなおし入れ替えてゆく態度。人間にとって身体とは何か、生き死にとは何か、存在とは何か、を追求する踊り。

既存の思考形式・舞踊形式・歴史規範にとらわれないで、 正直に現在に向き合い、ありのままを追求する踊り。

自分の身体との関わりを外的のみならず内的にも探求する踊り。

まずは観てみてくださいと

「身体表現」、「小学生の俺が興味を持ってシンパシーを 感じた身体表現だから、誰が見ても興味深いものだと思 う。」などと。

日本で生まれた前衛的なダンスです。

土方巽、大野一雄らに関して話し彼らがした活動 日本 で始まった現象

基本的な情報(いつ、誰が始めたというような)ことと、土 方さんや一雄先生の画像等をお見せしています。

西洋のダンスに対してのアンチまた脚下照顧としての視 点から始まり、それを超え人間についてや魂の有無まで 踏み込みんだ日本発のダンス

闇夜に光を探すもの

1959年に日本で生まれたコンテンポラリーダンス

舞踏とは舞台芸術を通した存在の深層の探求であると 思います。

肉体と魂をつなぐプロセスの実演。

日本で生まれた深遠な芸術で、人間のからだ、こころ、空間の深層の探求

60年代に始まった日本の前衛舞踊。

説明できない

日本独自のスタイルを追求したダンス

60年代の最前衛的な表現として生まれ、舞踊だけでなく アヴァンギャルド全般(芸術全般)に大きな影響を与え、 牽引した。→世界中に波及した。キーワード 土方 大 野 大駱駝艦 山海塾 白虎社、白塗り

25

時代を鋭利に突破する身体エンターテイメント

2 舞踏に対する価値観について 舞踏に対する価値観について

草木や昆虫、動物や目に見えないものたちのイメージを 身体にうつすことのできる表現技法。メッセージやストー リーではなく、種々の感情やイメージに伴う身体のプレ ゼンス(存在感)そのものを表現としている

- 身体表現によるパフォーマンス。ことばがないからこそ感動が深い。(私は舞踏を知ったことで、日常生活のいろいろな動きを大切にできるようになった)
- ・ 舞台表現の中で「ことば」がないからこそ感動が深い。
- ・ 生きている形、命の形を表現しようとするもの
- ・ 表現する人の愛から立ち上がった、命の表現
- ・「生きていることが舞踏|「日常生活そのものが舞踏|
- ・ただ、格好良く踊るというよりも、生きている、命の愛から出発した表現~だから公演を見ると、初めは表面的なもの、目から入ってきた状況を知っている範囲で理解しようとし、「理解できない」と感じることが多いが、そこからもう少し心を開いて、共感的にみていくと、自分自身の愛に触れることができる。(これが私が感じる舞踏の魅力で、これは舞台が終わっても続く。)
- ・ 生きている形。地面の上に「立つ姿」、「ある姿」の表現
- 日常の中で、特に舞踏とか芸術活動とか知らないし、意 識もしたことのない人の生き方や動きの中に「舞踏のよ うな動きだ」と思えるような表現に出会うことがある。「舞 踏家」(舞踏を知っている人を含む)はそのことの価値を 知っている人。

変な踊り、コンテンポラリーダンス、身体に深く向き合う 踊り

白塗りで震えたりしながらゆっくり動くやつ

Taking care of Life

日本発のコンテンポラリー ダンス

死ぬ前にみる走馬灯のようなもの

命(魂)の輝き、が舞踏と伝えています。

戦後、日本で始まったオリジナルな身体表現。

世界と対話して生きていくことを、踊りという形で見つ め現すこと。

ドイツのノイエタンツの流れを受け、シュールレアリズムやオカルティズムとクロスしながら戦後日本の復興過程から生まれた、反近代、反芸術、反社会、反ヒューマニズム的要素を内包することによって、創生当時は前衛舞踊と呼ばれ危険視されたもの。広義には、踊り人、観る人、批評する人の区別は無いところの全身全霊を挙げての生命の営み。よって、決意さえあれば誰もが参入できるもの。たとえ手足がなくとも踊れるもの。肉体から離れた言葉。言葉からはぐれた肉体を奪回せんと意志する行為。自己を投げ打つことによって自己と出会うパラドックス。

白塗りで自分のイメージで踊る前衛的なダンス

例えば「踊り」といふ系統発生樹の樹液の如きもの。ダンス、踊りのジャンルではない!

白塗りをしてちょっとアヴァンギャルドなおどりなど

最も肉体に近い魂の型。

それは世界のおのおのの民族で、あまたのダンスがあるなか。それは日本の舞踏者であり、ありつづける人が、その生前、われわれに語りつたえた。舞踏とはほんとうの人間の生活を探すための一手段なのです

その呟きは、ときの時代で死語のように、水のようで、地中へ深く潜り。ときに日本の四季の郷で、静かに地面を濡らす小雨と交っわって、湧き水ともなって、あたりのなかに、きらきらと光っている。

4-3 記憶に残っている舞踏作品 アンケート記述回答一覧(個人情報が特定し得る回答は一部改変)

O. 記憶に残っている舞踏作品を教えてください。

上杉満代

- » 上杉満代「ベイビーメランコリア-夢六夜-|
- »「御殿、空を飛ぶ」
- » 上杉満代のベイビーメランコリアシリーズ
- » 上杉満代メランコリアシリーズ
- » 2017年4月、福岡で観た舞踏家上杉満代の「M |

大野一雄

- » 大野一雄 大森政秀
- »「御殿、空を飛ぶ」
- » 大野一雄 花
- » 1971年10月東京代々木八幡の青年座で開催された、 舞踏批評家市川雅プロデュース〈現代舞踊の異形〉シ リーズでの笠井叡 [丘の麓] (客演・大野一雄)の舞台
- » 1977年、大野一雄「ラ・アルヘンチーナ頌」
- » 大野一雄「わたしのお母さん」
- » 大野一雄が明治学院大学のチャペルで踊った。
- » 大野一雄 「わたしのお母さん」
- » 京都精華大学で行われた晩年の大野一雄の無踏
- » 京都精華大学で行われた大野一雄の公演
- » 大野一雄氏のヴッパタール公演
- » 映像でしか見られていないが、映画「書かれた顔」で 踊る大野一雄さんの海辺と劇場でのソロ
- » 大野一雄氏の「花鳥風月」(於:セゾン劇場)
- » 1972年日比谷野外劇場で観た大野一雄
- » 車椅子の大野一雄とそれを押す笠井叡の踊りスパイ ラルで見た
- » 大野一雄の「ラ アルヘンチーナ領 | 「死海 | 、土方報の

「四季のための二十七晩」

- » 動画:大野一雄&慶人のもの(タイトルは憶えていませんが、大野一雄さんは金色のドレスを着て、大野 慶人さんがサッカーするシーンがあったと思います)
- » 笠井叡、大野一雄、土方曜の多くの作品
- » 大野一雄「ラ・アルヘンチーナ頌」「死海」「わたしのお母さん」
- » 土方巽「疱瘡譚」、大野一雄「睡蓮」(釧路公演)
- » 大野一雄 アルヘンチーナ、大野一雄 富士山麓での 「狼」の舞踏

大野慶人

- » 大野慶人さんの野外での公演
- »大野慶人さん
- » 公演ではありませんが、「Can't help falling in love」に 合わせて大野慶人さんが人形を持って踊られる/人形 による舞踏。
- »「御殿、空を飛ぶ」
- » 大野慶人さん、ウサギの姿
- » 大野慶人 「花と鳥」寺田倉庫
- » 大野慶人の「花と鳥」
- »「花と鳥」
- » 大野慶人「花と鳥」 さきがけホール
- » 動画:大野一雄&慶人のもの(タイトルは憶えていませんが、大野一雄さんは金色のドレスを着て、大野慶人さんがサッカーするシーンがあったと思います)
- » 岡本太郎美術館での大野慶人「舞踏譜を語る」(10数年前)

27

笠井 叡

- » 笠井叡 「鏡のセラフィータ |
- » 笠井叡 [我が黙示録 |
- » 笠井叡の京都大学·西部講堂での公演
- » 初期の笠井叡のワーグナー曲を使用した、新宿の厚生年 金会館の舞台
- » 笠井叡 [日本国憲法を踊る]
- » 1971年10月東京代々木八幡の青年座で開催された、舞踏批評家市川雅プロデュース〈現代舞踊の異形〉シリーズでの笠井叡「丘の麓」(客演・大野一雄)の舞台
- » 笠井叡、大野一雄、土方巽の多くの作品
- » 土方巽の「東北歌舞伎計画」(亡くなる前のスタジオ200 での複数回)、笠井叡の「聖あんま断腸詩篇」(吉岡実さん の追悼公演)どちらが一番とは言えないです。

山海塾

- » 山海塾「MEGURI |
- » 大野一雄 百歳の年 ガラ公演「百花繚乱」での天児牛大 の「HIBIKI | 抜粋ソロパフォーマンス
- »「風 さかしま」(大駱駝艦)、「金柑少年」(山海塾)、「自在」 (石井満隆)
- » 大駱駝艦「海印の馬」、山海塾「かがみの隠喩の彼方へ― かげみ| 和栗由紀夫
- » 山海塾「めぐり」
- » 山海塾「うむすな」
- » 山海塾 「降りてくるものの中で とばり」
- » 山海塾「ひびき」
- » 山海塾の金柑少年

大駱駝艦

- » 大駱駝艦の多摩川での公演
- » 大駱駝艦 「完全なる人人」

- » 大駱駝艦のTEPCOふれあいコンサートでの舞。共演して泣きました。
- » 大駱駝艦「海印の馬」、山海塾「かがみの隠喩の彼方へ― かげみ」、和栗由紀夫
- »「風 さかしま」(大駱駝艦)、「金柑少年」(山海塾)、「自在」 (石井満隆)
- » 大駱駝艦の「海印の馬」
- » 大駱駝艦 「海印の馬」メルボルン公演
- » 大駱駝艦「貧棒な人」(1979年、豊玉伽藍)
- » 一番印象という訳ではないが、大駱駝艦(羅生門)青森公 演、白桃房(日本の乳房)青森公演など多数
- »初めて見た大駱駝艦の公演

玉野黄市

- » 玉野黄市「自然の子供」、土方巽「疱瘡譚」、「ひとがた」な ど(映像)
- »「御殿、空を飛ぶ」

白桃房

- » 一番印象という訳ではないが、大駱駝艦(羅生門)青森公 演、白桃房(日本の乳房)青森公演など多数
- » 白桃房 Plan B公演 1980年代?

土方 巽

- » 舞踏を始めるきっかけになった「静かな家」
- » 土方巽の「東北歌舞伎計画」(亡くなる前のスタジオ200 での複数回)、笠井叡の「聖あんま断腸詩篇」(吉岡実さん の追悼公演)どちらが一番とは言えないです。
- » 土方巽 「疱瘡譚 | 映像
- » 笠井叡、大野一雄、土方巽の多くの作品
- » 土方巽「疱瘡譚」、大野一雄「睡蓮」(釧路公演)

- » 玉野黄市「自然の子供」、土方巽「疱瘡譚」、「ひとがた」な ど(映像)
- » 動画: 土方巽のもの(タイトルは お父さん? だったよう に思います)

室伏 鴻

- » 室伏鴻 「Faux Pas |
- » 室伏鴻「quick silver」
- » 室伏鴻「quick silver」

元藤あき子

- » 私が初めて見た舞踏で、デザインフェスタで元藤あき子 さんのお弟子さんたちが5,6人で踊られていた舞台。(2004 年) 2階から叫んで走って綱から降りてきて、舞台中央で は数人の白塗りの人がゆっくり客席へ散らばって動いて いく。
- »「御殿、空を飛ぶ」

和栗由紀夫

- » 大駱駝艦「海印の馬」、山海塾「かがみの隠喩の彼方へ― かげみ」、和栗由紀夫
- » 和栗由紀夫の慶応新入生歓迎での公演
- » 2017年10月19日、京都精華大学での和栗由紀夫パフォーマンス・レクチャー「舞踏の現在」における【病める舞姫】

その他

- » 20代に見たものは全て自分の中で強く印象に残っている ので1つだけというのは難しい
- » 一番最初に見た北方舞踏派のもの(題名は失念)
- » アスベスト館芦川羊子公演 「鯨線上の奥方」

- » 五井輝「神居」
- » 財津暁平の公演
- » その時の自分の年齢や成長度に合ったものが印象に残っているので、答えられない。
- » 天道地動
- » 1968年 高井富子舞踏公演「まんだら屋敷」
- » 中嶋夏 「根も葉もなく」
- » 吉本大輔さんの野外パフォーマンス
- »「マ・グ・サ・レ」 出演/小林嵯峨・宮下省死・成瀬信彦 音楽/石川雷太 音響/安達がらん 照明/字野敦子 会場/シアターバビロンの流れのほとりにて
- » 舞踏の括りに入るか分かりませんが、首くくり栲象さん の庭劇場公演です
- » ピナバウシュのもの
- » 1981年くらいのSDC舞踏研究所のスタジオ公演。
- » [Here we are! | 島崎徹作品
- » 岡本太郎美術館での境野ひろみさんの舞台。(土方巽「肉体のシュルレアリスム|でのイベント)
- » 舞踏舎天鶏の公演 「女中たち」 の筆宝ふみえさん
- » 大野一雄フェスティバル2009~
- » 原田伸雄 [エーテルの赤い河 |
- » 釧路ジスイズ肉体の反乱
- » 円
- » ティツィアナ・ロンゴ ソロ公演「MUT」
- » 田中泯×灰野敬二
- » 川口降夫×ジョアンナ・コンスタンティン 寺田倉庫
- » 根耒裕子 相良ゆみ
- » 堀内博子「変容と秘儀|
- » 南阿豆ソロ公演「Scar Tissue IV~消えない傷跡~」
- » ライブパフォーマンス 4年前に観た 睦美·寧呂の舞踏
- » 大岩英夫ソロ
- » ありません。

5

記録方法について

5-1

公演記録への関心

Q. 公演の記録を残すことについて関心がありますか?



5-2

公演記録公開への関心

Q. 公演の記録を公開することについて関心がありますか?



Q. 「関心がない」とお答え頂いた方に質問です。

公開したくない理由を教えて下さい。(アンケート記述回答一覧)

- 踊りは映像に映らない。自分のおどりが形ものではなく 呼吸そのものであるからなおさらである。しかも作品を 残すということに賛成しない。
- 舞台は基本的に生物で映像は全く異なるものとして捉える必要があると思う。
- ・ 舞踏はその時のものであるし、個人的なものである。
- 3次元(または4次元)の舞台表現を2次元の媒体で見せてアレコレ判断されても困るから。映像作品として発表する分にはOK。
- ・ 公開したくない訳ではなく、自分のなかで必要性を感じない。
- わたしにとって踊ることは密かな楽しみであるから
- 個人的にはその場で生まれて消えていくもので今は良いと感じています。
- 舞台は、その場が全てであり、アーカイブによって残す ものではないと思っているとから。
- ライブの空間に身を置くことのみ。いなか名目であれ誤 解を招く、個的なデータまでか

5-3

公開範囲について

Q. 公演の記録をどの程度公開することに関心がありますか?

コンテンツに関する基本情報の公開 (タ仆ル、日時、出演者など)



コンテンツ内容の公開



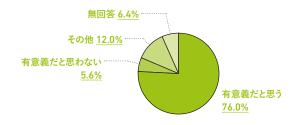
6

本アンケートについて

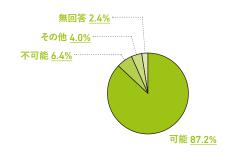
6-1

アンケートへの反応について

Q. 本アンケートを有意義だと思いますか?



Q. 公演記録・資料の収集ならびに保存に関する調査のために今後個別にご連絡を差し上げることは可能ですか?



7

アンケート回答についての考察と課題

今回のアンケートより、回答を幾つかのカテゴリーに分類することのできた以下3つ の項目についての考察と、次回の調査に反映すべき課題についてまとめる。

- 「1〕舞踏に興味を持ったきっかけ
- [2]舞踏をどのように説明するか
- [3]経済状況

「1 舞踏に興味を持ったきっかけ

「3-1. あなたが舞踏に興味を持ったきっかけを教えて下さい。」という質問からは、今回のアンケートの回答者が、どのようなきっかけで舞踏に興味を持ったかについて、以下の6つに分類することができた。

- 〔A〕生の舞踏公演を鑑賞して
- 〔B〕演劇や映画などの隣接領域の芸術からの興味の移行
- 〔C〕写真・映像・チラシ・ポスター・雑誌・インターネット等のメディアを通して舞踏を見て
- (D) 家族・知人・教員等からの勧め
- 〔E〕舞踏ワークショップ・舞踏の作品制作への参加
- 〔F〕 その他

[A]生の舞踏公演を鑑賞したことや[E]舞踏ワークショップ、舞踏の作品制作への参加など、舞踏に直接的に触れた経験を挙げる回答は多く見られた一方で、[C]写真や映像などのメディアを通して見たことや、チラシ、ポスターなどの印刷物から舞踏に出会ったという回答も同程度に多く見られた。舞台上の出来事だけで

なく、記録媒体を通してもその魅力が伝播する、 ということは舞踏の持つインパクト、あるいは これからも有効なポテンシャルなのかもしれ ない。また、[B] 隣接領域の芸術から舞踏を知っ たという回答も複数あり、複数のジャンルを横 断・越境するような初期の活動の影響をうかが うことができる。

「2〕 舞踏をどのように説明するか

「3-2. 舞踏を知らない人に、あなたは舞踏をどのように説明しますか?」という質問からは、今回のアンケートの回答者が舞踏をどのように捉えているのか、思い描く舞踏像を以下の5つに分類することができた。

(A) 舞踏の発端・歴史的背景への注目

舞踏が始まった年代、発端に関わったあるいは初期に活動していた具体的な人物名、あるいは時代背景などの舞踏の発端・歴史的背景について

(B) 外見的な要素への注目

舞踏における見た目や動きなどの外側から認識可能な特徴について

〔C〕内面・精神的側面への注目

感覚や精神性、表現しようとしているもの、あるいは動機などの内面・精神的側面について

〔D〕実演・舞台鑑賞・映像を通しての提示

言葉で説明するよりも、実演する、舞台を見に行ってもらう、映像を提示することによって伝える

〔E〕 その他

[C]「内面・精神的側面への注目」を特徴として 挙げた回答が、多くの割合を占めた。内面性へ のベクトルが強く感じられるのは、舞踏の拡が りを理解する上でも留意すべきことであろう。 舞踏のポテンシャルとして、異なる言語・文化 圏における回答の違いが今後見られるかどう かは興味深い。

外見的な特徴を挙げた回答では、「白塗り」というワードが目立つ。バレエにおけるチュチュやトゥシューズのように、外見的なイメージを通してジャンル自体の認知が広がり得るという視点を、舞踏にも当てはめることができるかもしれない。

[3] 経済状況

今回のアンケートでは、2017年中の舞踏家/ ダンサーとしての活動における「おおよその収 入」「おおよその支出」といった経済状況とその 「満足度」についても質問を行なった。

今回のアンケートの結果では、「収入無し」「収入が10万円未満」または収支のバランスが0円あるいはマイナスであっても、自身の経済状況に「満足している」「まあまあ満足している」と回答している例もあった。また「収入が300万円以上」であっても「満足していない」という回答もあり、金額の多寡と経済状況に対する満足度との間に必ずしも相関があるとは言えなかった。各々の人生の中における舞踏の位置付けや、活動の方向性、それだけで生計を立てることを志しているか否か、といったスタンスの違いにも依ることなのかもしれない。

また、満足していない理由について、例えば現代美術や演劇、コンテンポラリーダンスなど他ジャンルとも共通する課題(集客や認知度・需要について)が多く挙げられていた。この点を鑑みると、同課題に対する他ジャンルにおける成功例を参考にすることも可能であろうが、もしそうでないとするならば、舞踏固有のポテンシャルを活用して、舞踏に関わる表現者達がどのようにして潜在的なニーズを掘り起こし、経済に関わる課題を解決していくのか。それぞれの回答者が何を思い描いているのか、今後改めて問うてみたい。

34 アンケート回答についての考察と課題 アンケート回答についての考察と課題 35

次回の調査に反映すべき課題

今回初めてのアンケートを実施して、次回に向けて更に検討を行うべき主な課題として、以下が挙げられる。

- アンケート配布の対象者となる人物の抽出方法
- 定期的に活動を行うプロの実践者のみならず、その他の形で舞踏に関わる・実践する人々の実態も、より把握しやすい設問の設定
- アンケートの回答から、更なる考察や調査、課題解決に向けた視点を見出すことに繋げられるような設問の設定

次回以降においてはこれらの点を反映し、活動の現状把握という点にとどまらない、舞踏に関わる人々 にとってより有益となり得る調査にしていきたい。

なお、分類の元となった具体的な回答内容については、本レポートの各ページをご覧頂きたい。 (舞踏アーカイヴプロジェクト特設ページ http://www.dance-archive.net/jp/butoh.html)

特定非営利活動法人ダンスアーカイヴ構想

調査主催/お問い合わせ 特定非営利活動法人ダンスアーカイヴ構想

〒140-0004 東京都品川区南品川5-11-19 E-mail:research@dance-archive.net

WEB:http://www.dance-archive.net/

助成:アーツカウンシル東京(公益財団法人東京都歴史文化財団)



